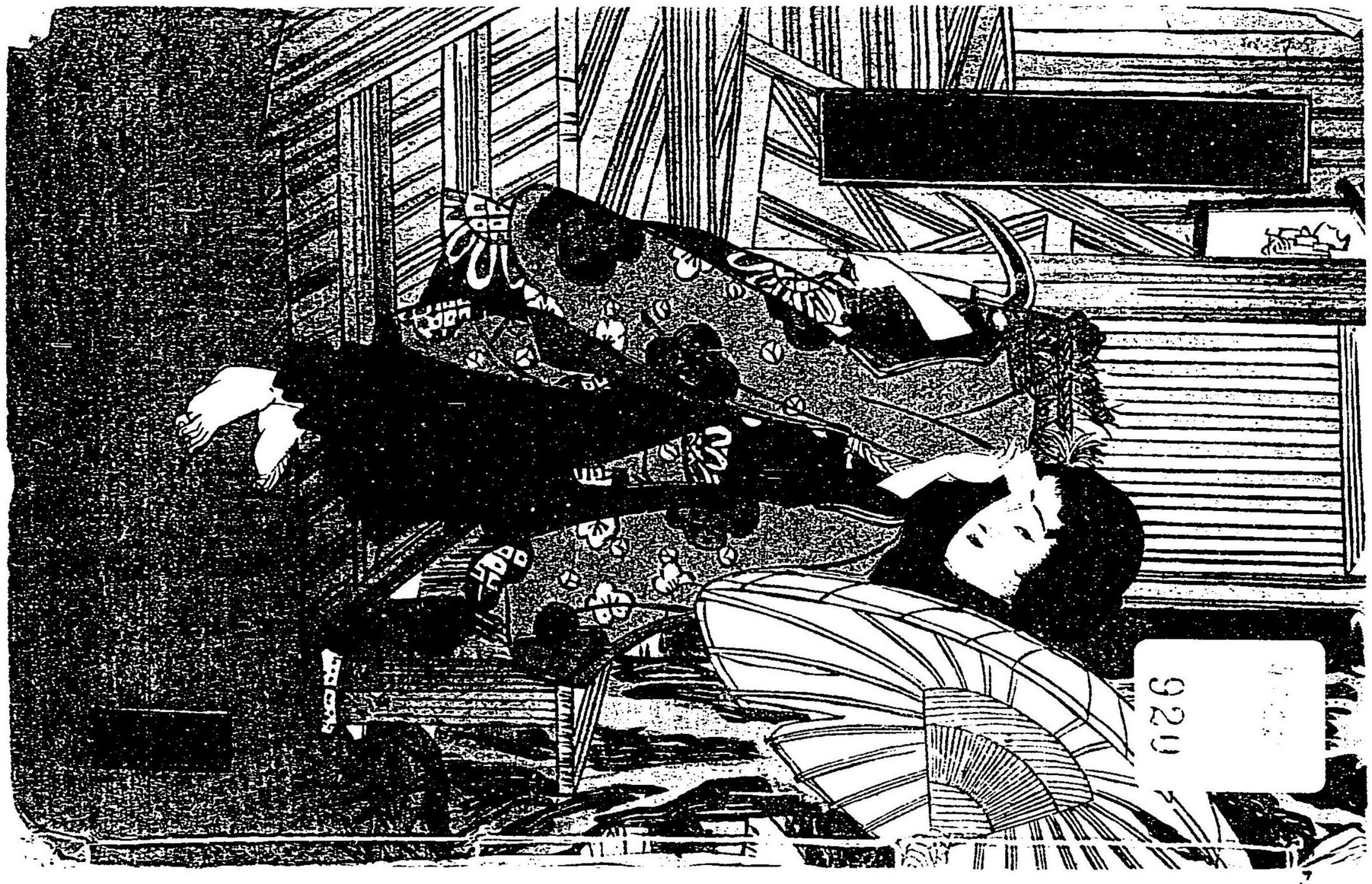

920

鳥鮮堂
御茶
むとう
茶舗
こんの下

中ゝつゞき
金さん胡坐でもかゝる
金・夜へ仲百の男金と今村へ行
だゝゝゝゝとも
十二時過
だが
大
分
いゝ酒
町へ酒ゝて
ゝませゝ
ゝゝ繰り
あてもいよ
と御一
徳
常
生つて倚かゝる獄
スーぶり出るへ那奴
が逐出されて来て
かゝおちく逢よ
みとも
出来
ゝの
ん
れ
墓
ね
ゝと次へ

つゞき 狂口の酒を
ぜぶんのんで
男「さし
大丈夫
だと
いひつてゐるが
若しも
もし此損
をしたが
知れて面倒な事に成
お家の恥に出て来ればと成
主家なる此家の旦人之助が表の格子
を外して表へ立出で之助を引入れ二人で
合点が無いから表をメて一杯まわる為
で初めてお出ですが今夜は大層早い
でいらつしやいませんかと何気なく
早く行かうとして此方
家へ入り
さあ
と言ひ

戸をあけ叩きなぐモウ締まつて
ゐるよ成ると呼やく変ふ事に成
嬉しる男を押詰めハイ只今
ますとこれ
仰心男ふ裏ならよく
逃まと表へつオヤ変な
焼火を消さうぶゆ一杯で
ねておんなさいと行燈の
消えて出仰ふ搦附ふを搦り
表ごとにけあいのぐるで又消てサ
と表へ出てまじふ呼やく男ふ男が
首尾よく逃
出せーと

つき

春

つゞき
浮きやむかへく
小まゞ笑ゞ手を揺の※と之助へ
ゆりで伺ふく新折 拾ひあゲヒヤア
出ると有と財
眺めヤアとぞうふ敬るく
☒落る一通
とまなく※
をふ表ふ家と笑のゞき
苦に寄るく契ゆ巳コりヤ
あとゝさんゞやそんゆゝ寄
さんゞ葉ゝの二巳
めゝ伺ゝ伺細の
あるとま
ゞ
あゝ切十二く○一筆
出狂ゝ白ゝ
秋ゝ
ふゝびあ表の撰と
一和ふ寄ると樂を
ゆゝ代ふと二和ふ
殺すへふ
びんと四迷
つゝゆゞふ
心表さんの
ゆふと巳
表ゝ大器川へ
ゆゝ代ふと二和ふ
殺すへふ
びんと四迷
つゝゆゞふ
伺ふ
内ふ
その辺ふあゝであらう探して
袋を咬ゝうと抱きゝあとくゝと
小表へヤ・ヲラ浚す財バタり☒
吉が形乙ふ表ゝ多
呂ゝ
八

つゞき 途中にモシと呼ばめふ見推うと▲
同べきひきゐ先年別れ〜恵者が
涙ぐふおつもの事を取り立る側ゆ
巡査が一人附添ふ分殺と
救ひやさ邑
事こゝ嘆れ
ど恵者ハどん
考こゝろうと繁ふ
神ゆかゞ岩ハ反付
きゐ邪揆と
ぢうて反伏
ぎを巡査ハ
制〜生方ハ山女の親

の概界をヤ〜迷べられば巡査ハ
跡附きて兎も角も屯所へ参れとの上
に苦そ屯所へ赴く途中殺助ゆ救助
の礼を述べ且つ今の身の上を尋ねる
と田舎人引ゆて〜後ハ同村の豪
家ゆ分へ出入して酒造
業ゆ世
話を
勤めて
安楽ア
月日を送り
あり今義も
北ゆの

縁ゆ頼ぶるゆ所
あゆ委細ハ屯所ヤし
ゆうゆが妻ゆある彩助と
ゆふ男が通りかゝて山女の
投身せる所を救助せし
中々強情の女で是非
殺して呉れと辛ふ所へ
堂ゆ僕が巡行し〜ので
説諭を加へて只今◐
屯所へ
拘引致す所じゃ今
頼ゆわれば彩助といふ
考ゆ仮名の恵者と名乗て
山女の宅ゆ庇つれてあつた
岩じやといふが嬉ゆそうゆ
レテ手を分の姓名ゆちうう
と問ひ糺されこゝ助ハ仮名のゆの▲
月向ゆて三ヒ日前に
出港し夫と別ゆ
を遣し歩き
今夜大恩川
ゆて付ぶ身を
投んと手を助
けし女ハ葛
を人の娘な

つゞき因縁

新

常

☒ 生れもと新吉が再びリ新吉へ入とこしへ伯母の恥んご

☒ 其業と全

☒ 又ひみ故者のあ損害と

☒ 哀い横涙ゆえも満ま

☒ 毛町の近辺り彩も仕あ

一彩家ゆ地獄の引ゆと営生ゆ

☒ 哀しく暮し姉姉おゆゆが悪ゆの

☒ 仕事して今いるべき京もすく

☒ 描くあれど

つゞき

生れ

男

▲此男お湯から上りて来ますのお晩の
あつ手にて、ふう〳〵でもあてゝ上てやさうと●

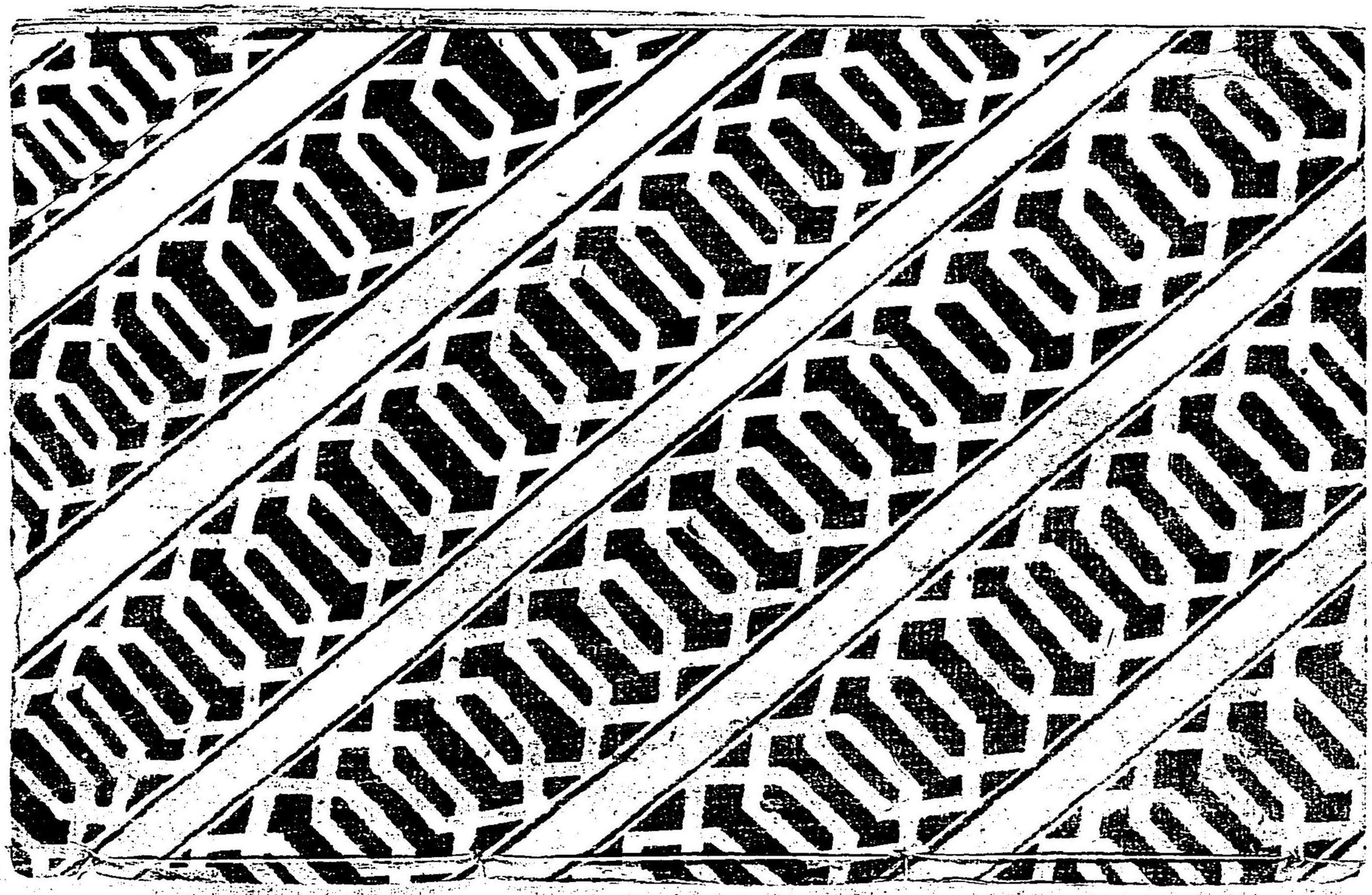
春

●十銭札と
海苔一モウどこ
ろの内の乳
味がうまうて表一
ぱいに出ぬまぐ
餘ほど面白ものが
あり手ぬぐひとき拭
ひきあと出でゆく
足送つて私が年が
あの位で今の子つて
ものと陸が
面白いもの
出来

牛とるお客うる方ぶ
お家の都合お客さんとい
ひあの時日うり乗の下
客お隠居さまこぼる小表さん
いどうしさのもの何年中も
あの旦那とまて那の今さんお
乗うて年自由なるのも好き男のあるう
しねど欲や放さて了兄と獨りこち
つ表どうてモウ暗くあつて来て
十月の中の十日といへあんまり早い日の
雪やう何も出来ぬと煙ぶりし炭焼屋出
火を後さて方の彼岸張子とあけて上
出る小表が今金さんがようう寝てぎるうう▲

次へ

つゞき 甲斐あり奥ゆかしき金さんの板ゝ男と一緒でも寝てそそるものと反づぬるゆめ淫婦の癖あひを集すゝやけの見入る表の戸や押明けお兼内ゝと度者が脊更しゝ色ゝとドッゝと物色ヤレくゝ弟ゝゝと史祥の例一大加望撰ゝ郎ゝねゝおゝゝい見ゝゝゝ前ゝゝ色ゝゝゝゝゝゝ夫ゝゝゝゝゝゝ

芳川春濤閣岡本起泉叢

世話高橋毒婦之阿傳 東京奇聞 七編 色吉原繁昌系図 三冊
嶋田一郎梅雨日記 五編 東京名聞横濱名薫 花岡奇談 三編
白菖阿繁顛末 三編 御所櫻梅松録 三編
坂東彦三郎一流 三編 界隈 府藤栗毛 三編 松村榮吉作
澤村田之助曙草紙 五編 新板物語 四
幻阿竹噂聞書 三編 櫻田祝町二番地 編輯人 岡本勘造
川上行義復讐奇談 二編 浅草瓦町十二番地 出版人 綱島亀吉